



広報みはま 500号発刊

町の広報紙「広報みはま」は、今月号で500号となりました。昭和29年4月に産声を上げた広報紙は、今年で58歳を迎えます。

今月号では、美浜町とともに歩んできた「広報みはま」のこれまでの軌跡を、紙面を彩った写真を中心に振り返ります。

◆ 記念すべき第1号 ◆

第1号は、昭和29年4月10日に発行されました。

発行の2か月前に美浜町が誕生しており、紙面には、初代町長・綿田捨三氏による就任の辞や第1回町議会の議決事項、町制実施祝賀祭の内容等が掲載されています。

サイズはB4版で、ガリ版刷りで作られています。初期の広報は年間発行回数が流動的で、現在のような毎月1回発行となったのは、第56号（昭和47年12月発行）からです。





第48号(昭和46年10月25日発行)では、小浜線全線開通以来、49年間走り続けた蒸気機関車が廃止されることを紹介。写真は蒸気を上げて走るSL最後の勇姿。



第47号(昭和46年8月10日発行)。全国高校野球選手権大会(夏の甲子園)に出場を決めた美浜高校野球部が表紙。優勝旗を先頭に、美浜駅から旧役場庁舎まで行進した模様を伝えている。

広報みはま Library



第37号(昭和45年1月1日発行)。この号から形態が冊子となり、表紙には写真が登場する。表紙写真第1号は、丹生区に建設が進む美浜発電所1号機と2号機。右に映っているのは丹生大橋。



第100号(昭和52年1月25日発行)の表紙は、美浜消防団による出初式。現在出初式は耳川で行っているが、この当時は弥美小学校の校庭で行っていた。



第80号(昭和50年4月25日発行)。この年の4月から美浜中学校が開校した。表紙は学び舎に登校する女子中学生たち。照れ笑いを浮かべながらカメラを見る姿が印象的。



町民の活動を紹介するのが、今も昔も広報紙の役目。この記事は、佐柿区中年会が国吉城合戦(1563年)の名残りとして城山に散らばっていた石仏を回収する取り組みを伝えている。第123号(昭和54年12月20日発行)。



斬新な表紙。保育園児が描いた絵が表紙を飾る。第104号(昭和52年6月10日発行)。



第134号(昭和56年2月13日発行)。この年は昭和38年以來の豪雪となった(56豪雪)。表紙には、豪雪を物語る写真と、町長からの「豪雪との闘いご苦労様でした」という除雪の協力に対するお礼を掲載している。



第214号(昭和63年9月1日発行)では、台湾の石門郷(現・新北市石門区)と姉妹都市提携を結んだことを伝えている。調印式は、8月10日に中央公民館で行われた。



第230号(平成2年1月10日発行)からサイズがA4版に。表紙は梅丈岳山頂から撮った日の出。



平成9年1月に起きたナホトカ号の重油流出事故について伝える広報みはま。1月23日発行の第313号から3回にわたって、重油が漂着した海岸や、住民・行政・ボランティアが協力して重油回収に取り組む姿を、後世に伝えるべく全力で取材した。



第167号(昭和59年11月16日発行)。町制30周年を記念し、10月19日に「大相撲美浜場所」が西郷グラウンド(現在の西郷健康ひろば)で開催された。千代の富士、小錦、大徹等の人気力士が登場し、4千人の観客が来場したとのこと。なお、この年の7月25日には、NHK巡回ラジオ体操の公開放送が美浜中学校グラウンドで開催されている。



第216号(昭和63年11月5日発行)。第1回美浜町民レガッタの様子を掲載した。表紙にはレースを楽しんだ参加者も登場。

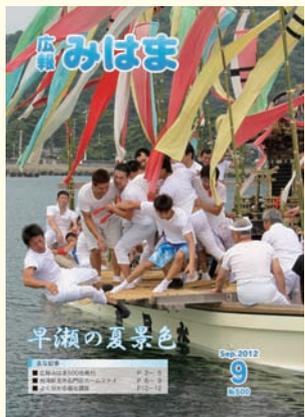


町のシンボルマーク「ハートフルマーク」が決まったことのお知らせする第206号(昭和63年1月1日発行)。

第224号(平成元年7月5日発行)。この年6月18日に、第1回美浜・五木マラソン大会が開催された。



第401号(平成16年5月21日発行)から
毎号、表紙と裏表紙がカラーとなった。



第390号(平成15年6月23日発行)の表紙は、
総合体育館横の広場に作られた人文字「美浜50
年」。町制50周年を祝い、千人以上が参加した。



町制施行50周年を記念して発行された特別号(平成16年2
月11日発行)。町の半世紀にわたる歴史や「大スキ!美浜」作
文コンクールの入賞作品等が掲載されている。ちなみに、
表紙は渡辺弘子さん(早瀬)の布絵作品「日向水中綱引」。

広報みはまでは、度々この町に密着した特集
を掲載している。この号では、「ボートの町美
浜」と題して、ボート競技と美浜町の関わりに
ついてお伝えした。第453号(平成20年9月
22日発行)。



今月号(平成24年8月23日発行)。皆さんの
ご愛読のおかげで、無事500号を迎えるこ
とができました。

皆さんののおかげで

500号を達成

「広報みはま」の創刊から今
年で58年目。この間、広報紙
の発行にあたっては、たくさ
んの方々にご協力いただきま
した。取材に応じてくださっ
た方々、情報を提供してくだ
さった方々、読者の方々。
500号にたどり着くことが
できたのは皆さんのおかげで
あり、ここで改めて感謝申し
上げます。

「協働のまちづくり」に向けて

少子高齢化や高度情報化の
進展等、私たちを取り巻く社
会情勢は大きく変化していま
す。その変化により住民ニー
ズが多様化し、まちづくりの
方針も大きく変わりました。

現在、本町では「協働のまち
づくり」を進めています。行
政任せではなく、住民と行政
が一緒になって町の未来を考
え、その実現に向けて行動す
る「協働のまちづくり」では、
広報紙は、行政と住民の皆さ
んをつなぐパイプ役として、
その果たすべき役割がますます
大きくなっています。

今後も「広報みはま」は、町

の施策や事業を迅速かつ分か
りやすくお知らせし、行政と
住民の皆さんとの情報共有化
に努めていきます。

これからも町の町にも

インターネットが普及する
中、紙媒体の広報紙を発行す
ることにどんな意味があるの
でしょうか。

それは、この町の姿を形あ
るものとして記録し、後世に
伝えるということです。この
ことは、情報の更新を繰り返
すインターネットでは困難な
ことです。

「広報みはま」はこれから
も、この町とともに歩み続け
ます。そして、この町の「今」
を記録し、皆さんに伝え続け
ていきます。

